

Back Number

本論文は

世界経済評論 2021 年11/12月号

(2021 年 11 月発行)

掲載の記事です



世界経済評論

定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読



0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp

雑誌のオンライン書店

チャイナ・ショックの経済学 ：米中貿易戦争の検証

九州大学大学院経済学研究院教授 清水 一史



[著者] 大橋英夫（おおはし ひでお）

専修大学経済学部教授

[発行] 勁草書房，2020年10月刊

[判型] A5判，184ページ

[定価] 本体2,700円＋税

現在、米中貿易摩擦をはじめとする保護主義が拡大し、2020年からはコロナ感染が拡大して、ダブルショックとなって世界経済を襲っている。米中貿易摩擦・米中対立は更に拡大を続け、世界経済に大きな負の影響を与えている。

本書は、副タイトルにあるように、「米中貿易戦争」の争点を整理し、その影響を考察している。すなわち、トランプ政権の成立前後における米中経済関係の構造的変化を把握し、相互制裁・報復の発動に至った米中の「貿易戦争」の主要な論点を検証し、今後の米中経済関係を展望するにあたっての含意を提示している。

各章を見ると、「序章 米中経済関係の構図」で、「米中貿易戦争」の背景と本書の課題が提示され、「第1章 トランプ政権の衝撃」では、

激しい中国批判を通して大統領の座に就いたトランプ政権の成立に至る過程が考察される。「第2章 『チャイナ・ショック』の経済学」では、中国からの輸入増加と米国の労働市場の関係を、製造業就業者の雇用に焦点を当てた米国の研究から考察し、「第3章 米中貿易不均衡の構造化」では、1990年代から米中関係の大きな争点とされてきた貿易不均衡を検証している。「第4章 米中投資摩擦の顕在化」では、「走出去」政策とともに本格化した中国の対米投資に焦点を当て、「第5章 技術・知的財産をめぐる米中関係」は、通商法301条調査の焦点となった中国による米国技術・知的財産権の移転・窃取の実態に迫り、「第6章 対中制裁措置の展開」は「貿易戦争」の展開過程の確認作業を行っている。そして最後に「終章 米中経済関係の展望」で、それまでの考察の上に、「米中貿易戦争」の含意をまとめている。

本書は、米中経済関係の構造的な変化を丁寧

に検討して、現在の米中貿易摩擦・米中対立の状況を把握するための基本的な視角を与えてくれる。本書は、1998年に刊行された『米中経済摩擦』（勁草書房）の続編であり、著者は約四半世紀をかけて米中経済摩擦を追跡してきている。著者は中国経済の専門家であり、中国経済や中国の対外経済政策の多くの研究蓄積が本書に生かされている。更に著者はアメリカ側からの研究も蓄積しており、中国とアメリカの両側からの把握が、本書の考察の厚みを増している。

本書は、米中経済関係を理解するための必携の一書である。是非ご一読頂きたい。本書の考察期間は2020年前半までではあるが、本書に続く大橋氏の論稿として、たとえば最近の「変容する米中経済関係の行方：米新政権の成立」（石川幸一・馬田啓一・清水一史編著『岐路に立つアジア経済』文真堂，2021年10月刊の「第2章」）がある。合わせてお読み頂ければ、現在の米中関係が更に理解できるであろう。次の著書も、大いに楽しみである。

（しみず かずし）